授業概要

本講義は、公認会計士や監査法人が実施する会計監査がどのようなものであるのかを知ることが目的としている。会計監査といえば、監査人が最後に提出する短い文言の監査報告書だけが成果物であるので、そこに係れている結論だけでは、どのような監査が行われたのか、一般の人には理解が出来ない。その理解のために、『監査基準』および監査基準委員会報告等の公表物に基づいて、実際に現場に立っている公認会計士の立場から、我が国における会計監査制度の全体像を簡潔に講義する。

授業計画

第1回	会計監査総論	
第2回	会計監査の歴史と監査基準について	
第3回	会計監査の理論と監査人について	
第4回	監査実施の全体像	
第5回	監査意見と監査手続（1）	
第6回	監査意見と監査手続（2）	
第7回	内部統制と試査	
第8回	リスク・アプローチに基づく監査（1）～リスク・アプローチの基本的な考え方	
第9回	リスク・アプローチに基づく監査（2）～リスク評価とリスク対応	
第10回	リスク・アプローチに基づく監査（3）～監査上の重要性等	
第11回	監査計画と監査調書（1）	
第12回	監査計画と監査調書（2）	
第13回	他の監査人等の利用、経営者確認書	
第14回	監査人の意見と監査報告書	
第15回	除外事項と監査報告	
第16回	筆記試験	

到達目標

- ・ 会計監査が実際にはどのような手続きで行われているのかを理解することができる
- ・ 会計監査がどのような社会的意義を有しているのかを理解することができる。
- ・ 会計監査の社会的な役割について理解することができる。
- ・ 公認会計士試験の試験科目である監査論の基本的な知識を習得することができる。

履修上の注意

遅刻等について：講義中の入室は、講義の流れを悪くするので、極力避けること。

予習・復習

遅刻等について：講義中の入室は、講義の流れを悪くするので、極力避けること。

評価方法

試験結果 80%、平常点（態度等）20%で評価する。

テキスト

- ・ 講義の都度、資料等を配布予定であるので、必要なし。